

冬の寒い時期「冬将軍」という言葉が度々聞かれます。これはシベリアの非常に強い寒気団のこと。俳句の季語にもなっています。もともとこの「冬将軍」という言葉は、あのナポレオンに由来します。ナポレオンはヨーロッパを征服後、ロシアを攻めましたが、厳しい寒さによってロシアから撤退。この時イギリスの新聞が「General Frost(霜将軍)に負けた」と伝えたことから「冬将軍」と呼ぶようになったという説があります。また、あのヒトラーも「冬将軍」には勝てなかったと言われています。「冬将軍」が日本付近に到来すると冬型の気圧配置が強まり、日本海側は大雪、太平洋側は空気が非常に冷えて乾燥します。図は2018年1

月24日の天気図です。北日本の上空に強烈な寒気が流れ込み、山形県大蔵村肘折や新潟県魚沼市守門ではたった1日足らずで50 cm以上の降雪に。また翌日には都心では朝の最低気温が48年ぶりに氷点下4度まで下がりました。これから「冬将軍」が度々到来する季節。縦縞模様の天気図は要注意です。ナポレオンやヒトラーのように厳しい寒さに負けないよう、防寒対策をしっかりとって過ごしたいものです。

日本気象協会 小野 聡子 <https://tenki.jp/>

特別顧問	丹羽 晟（元理事長、日本空港ビルデング顧問） 丸山 博（元国土交通審議官） 本保 芳明（初代観光庁長官）
理 事 長	大島 慎子（筑波学院大学学長）
副理事長	岡村 進（元小田急トラベル社長）
事務局長	杉 行夫（理事） 事務局次長 堤 るり（理事）
支 部 長	魚住 隆彰（北陸：元北陸鉄道相談役） 長尾 亜夫（九州：西日本鉄道相談役） 梅原 利之（四国：四国旅客鉄道相談役）
理 事	須田 寛（東海旅客鉄道相談役） 寺前 秀一（元加賀市長） 分家 静男（元射水市長） 阿部和義（経済ジャーナリスト）

山田早苗（元近畿日本ツーリスト） 利光國夫（小田急電鉄特別社友） 近藤節夫（日本ペンクラブ理事） 長尾亜夫（西日本鉄道相談役）
北村 嵩（元JTB取締役） 澤田利彦（松陰大学学部長） 梅原利之（四国旅客鉄道相談役） 今井智康（ケーアンドケーロドス(株)代表取締役）
河西宏和（日本観光学会最高顧問） 角 廣志（NPO法人ふるさとテレビ副理事長） 望月義人（筑波学院大学教授）
大西啓義（アクティビジネス(株)代表取締役） 高橋俊朗（元(株)小田急レストランシステム取締役社長）
辛島保馬（元JTB国会担当、佐藤和弘公認会計事務所相談役）

団 体 会 員 アイエスカンパニー 一般財団法人NHK インターナショナル 株式会社えんれいしゃ 小田急電鉄株式会社
 関西電力株式会社 九州旅客鉄道株式会社 社団法人くらしのりサーチセンター 株式会社グリーンキャブ
 株式会社耕人舎 株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド 三普旅行社有限公司 四国旅客鉄道株式会社
 新菱冷熱工業株式会社 住友電設株式会社 セントラルリーシングシステム株式会社 大成建設株式会社 大成設備株式会社
 大成有楽不動産株式会社 株式会社丹青社 第一交通産業株式会社 株式会社ダイエーコンサルタンツ 中国電力株式会社
 一般社団法人中央日本総合観光機構 東海旅客鉄道株式会社 東急建設株式会社 東京急行電鉄株式会社
 財団法人東京観光財団 西日本鉄道株式会社 西日本旅客鉄道株式会社 公益社団法人日本観光振興協会中部支部
 日本空港ビルディング株式会社 専門学校日本ホテルスクール 羽田旅客サービス株式会社 株式会社バロックジャパンリミテッド
 広島電鉄株式会社 福岡空港ビルディング株式会社 北海道空港株式会社 株式会社ホテル小田急 ホテルメトロポリタン
 マイナミホールディングス株式会社 モバイルクリエイイト株式会社 株式会社まるまんフィオーレ 三菱電機株式会社

編集後記：

増大する観光客の悪質な振る舞いが地元を混乱を引き起こす事態は、ここ数年世界各地でみられるようになった。イタリアローマの市議会はこのほど、市内の観光客の不品行に対する罰則を強化する法案を可決した。深夜の路上での飲酒や集団でのほしご酒、観光名所「トレビの泉」に入る行為などが禁止となり、違反者には罰金が科される。古代ローマの衣装を身に着けた人に金銭を払って記念撮影をするのも禁じられる ▼世界各国が観光客誘致にしのぎを削っている。オランダアムステルダム市も2004年に市や観光業界が連携しキャンペーンを打ち出し、08年に452万人だった観光客が17年には826万人に増加し、市の人口の10倍近くになった。外国人観光客が増えるに従い、羽目を外す外国人が目立ち、住民への影響が無視できなくなり、市は14年、方向を大転換し観光客の抑制にかじを切った。しかし、ひとたび増えたものを抑えるのはなかなか難しい ▼酒に酔って朝方まで外で叫ぶ外国人、路上に捨てられるゴミ、民家への破壊行為、大麻を吸う観光客などに住民は悩まされており、不眠がちの住人から苦情が殺到しているという。市では海外での観光客の誘致活動をやめ、中心部でのホテルの新規建設、一部地域での貸し自転車店やツアーチケット店など観光客向けの店を新たに開くことまで原則中止したが効果はまだ表れていない ▼日本でもここ数年のインバウンドブームで外国人観光客が急増しており、京都や鎌倉などの有名観光地では、観光客の増加により市内交通機関の混雑や渋滞が問題化して、様々な対応策が実行されつつある。一部外国人による文化財や竹林での落書きや、民泊での深夜の騒音など住民との軋轢も生じている。▼外国人観光客の誘致は、観光業界のみならず社会全体に収益をもたらす大事な政策である。しかし、観光客の急増は住民との軋轢も生じさせる。今、観光の経済効果を得ながら住民生活を守る方策を考える時期に来ている。（北村）

特定非営利活動法人《NPO》

JAPAN NOW
観光情報協会

東京都新宿区西新宿 2-7-1
小田急第一生命ビル5S5
〒160-0023

電話 03(5989)0902
FAX 03(5989)0903
E-mail info@japannow.org
HP www.japannow.org/

発行人：大島 慎子
 編集長：北村 嵩
 発行部数：3,000 部
 主な配布先：会員、中央官庁、
 地方自治体、民間企業、マスコミなど

NPO法人

122

JAPAN NOW
Non-Profit Organization JAPAN NOW Tourism

人と都市・観光の地球時代を市民が支える

観光情報協会
Information Association.

東京都知事が認証した「都市・環境・観光 NPO」が発信する隔月刊情報誌

第122号 発行日2018年11月30日

観光庁長官に田端 浩 氏が就任

就任早々、お話しを伺いました。

JN協会(以下JN)：今、また、観光庁に着任され、以前観光関係に携わっていた時と、仕事内容や期待される役割の違いがありますか？

長官：振り返りますと、私が観光行政に携わっていた2002年当時、我が国の国際観光の状況は、訪日外国人旅行者数が日本人海外旅行者数の3分の1程度というアンバランスな状態であり、国際相互理解の増進の観点だけでなく、国際収支の改善、地域の産業活性化・雇用の確保といった経済効果の観点からも訪日外国人旅行者数の増加のための積極的な施策の展開が望まれていました。

そうした中、2003年からのビジット・ジャパン・キャンペーンの本格的スタートを皮切りに訪日客誘致に向けた戦略的展開が図られ、2016年には訪日外国人旅行者数2020年4000万人などの目標を掲げた「明日の日本を支える観光ビジョン」（以下、観光ビジョン）を決定し、この目標達成に向け、官民挙げた取組を強力に進めているところです。

2017年の訪日外国人旅行者数は2869万人に達し、また、同年の訪日外国人旅行消費額は、4兆円を超えるまでになりました。

こうしたインバウンドの増加は日本経済全体に対して大きなインパクトを与えるもので、観光に対する地域・経済、国民からの期待は以前に比して格段に高まっており、観光ビジョンの目標達成に向けてこの勢いをさらに加速させ、高次元の観光施策を展開させることが私の役割と認識しております。

JN:インバウンドは外客数の目標は順調のようですが、消費額の伸びは今一つのように見受けられますが、今後推進したい重点政策をお聞かせ下さい。

長官：訪日外国人旅行者の消費拡大に関しては、観光ビジョンで示された8兆円の目標達成に向け、急増する個人旅行者のニーズに的確に対応し、地方への誘客を進めていくことや「モノ」消費から「コト」消費への嗜好の変化を踏まえつつ、アクティビティーなどの体験型コンテンツの充実、ナイトタイムエコノミーの推進などを通じて、我が国ならではの魅力的な体験を提供することによって、長く滞在して娯楽サービスを楽しめるよう、滞在時の満足度向上を図っていくことが重要と考えています。

JN:日本人の国内旅行の現状と、今後強化して行きたい政策はどのような面でしょうか？。



田端長官プロフィール

1981年東大法学部卒業後旧運輸省に入省。国交省総合政策局観光部旅行振興課長、観光庁観光地域振興部長、大臣官房審議官(鉄道局担当)、鉄道局次長、自動車局長、大臣官房長、国土交通審議官などを経て、2018年7月観光庁長官に就任

長官:国内観光に目を向けますと、本年は、豪雨や台風、地震など相次ぐ災害に見舞われ、各地で大きな被害が発生しています。このため、風評被害払拭と観光需要回復に向けたキャンペーンを実施し、予備費を活用した「ふっこう割」などの施策に取り組んでおります。

日本人国内旅行の現状について、2017年の日本国内のホテル・旅館等における日本人延べ宿泊者数は、前年比1.6%増の4億2991万人泊となりました。日本人国内旅行促進のためには、休暇改革を進めるなど旅行のしやすい環境づくりが重要と考えます。例えば、学校の長期休業日の分散化により、大人と子供が一緒にまとまった休日を過ごす機会を創出する「キッズウィーク」などの取組を通じて旅行需要喚起を行っています。

JN：日本人の海外旅行は足踏み状態が続いていますが、特に若者の海外旅行離れに効果的な対策はありますか？

長官：日本人の海外旅行の促進は、諸外国との双方向の交流拡大を通じてインバウンドの拡大にも貢献し得るものです。昨今、若者の海外旅行離れが進んでいると言われておりますが、本年7月にとりまとめられた、民間有識者・関係省庁等による「若者のアウトバウンド活性化に関する検討会」の報告書に基づき、現在、若者による「海外体験」を広げていくための国民的ムーブメントを醸成するため、観光庁・旅行業界の呼びかけによる関係府省・経済界・教育界と一体となった横断的な組織の設置に向けた準備を行っていますところです。

2020 年訪日外国人旅行者数 4000 万人の目標の達成のためには、まだまだ課題もありますが、災害にも負けない「観光先進国」の実現に向けて、さらなる高みを目指して参ります。引き続き皆様のご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願いします。

JR 東海相談役 須田 寛

「観光」とは中国の古典易経にその語源があり「国(地域)の光<美しいもの、秀れたもの>を心をこめて観(見)かつ、学び又心を込めて誇りをもって観(示)すこと」によって人的交流をはかることと定義されている。又「観光」を具体的な行動面からみると、観光したいという気持ち(観光意思)をもつ人が、観光対象(目的地、目的物のある所)に赴き、それにふれることによって一定の感動即ち、観光効果を得たときに完結する行動」と考えられる。このようにこの場合観光対象から観光効果を得ることができた場合、その対象、目的物(地)はその観光客にとってはじめて観光資源となると考えられる。このように観光客に一定の感動(効果)を与え得る観光対象―即ち観光資源の適否、良否が観光の増進に決定的な影響を与えるといえよう。

ところで最近観光客とくに外国人観光客が急増し3,000 万人(年間)をこえる勢となった。しかし、これだけの人数になると外国人客もいわゆるリピーター(繰り返し日本を訪れる人)が増えてくる。国も外国人旅行者年間4,000 万人を2020 年の目標に掲げているが、そのうち2,400 万人はリピーターになるものと見込んでいる(既に現在外国人観光客の半数以上はリピーターとみられる)。又日本人観光客についてみると日本には修学旅行という慣行が定着し(小、中、高校ともその実施率は90%をこえる高率)ている。又高度成長期以来たびたびの国内観光ブームもあり現在主な観光地を訪れる日本人もそのかな

行政の話

10 月の訪日外国人観光客は264 万 1 千人前年同月比 1.8%増

本年1～10月累計では2,610万9千人前年同期比9.7%増

11月21日JNTO(日本政府観光局)発表の推定値によると、2018 年 10 月の訪日外客数の推定値は、前年同月比 1.8%増の264 万 1 千人で、昨年10月の259 万 5 千人を約4 万人上回り、10 月として過去最高を記録した。前月は、台風21号による関西空港の被災や北海道胆振東部地震などの影響で5 年 8 か月ぶりに前年割れだった。今月はプラスに転じたが伸率はまだ低い。1～10月累計では前年同期比9.7%増の2,610万9 千人となり、昨年は、10、11 月の2 ヶ月合計で約490 万人の外国人が訪日しているので、このままの勢いを維持すると本年度は3,100 万人前後に達すると思われる。

前月、特に減少が目立った東アジア4 か国で、10 月は中国が前年同月比7.8%増の71 万 5 千人に回復したが、韓国は8.0%減の57 万 1 千人、台湾は9.9%減の38 万人と伸び悩んだ。田端浩観光庁長官によると「韓国人は地震についてナーバスに感じる傾向がある。中国人は訪日需要が旺盛で、団体旅行の数も伸びている。」とのことである。一方、欧米豪

りな部分はその地にとってリピーター(再訪者)となっていて聞くと聞くと。従ってこれからの日本人観光客を考えると場合リピーターの割合はさらに増えるものとみられる。即ち今後の観光発展のカギはリピーター対策、即ちリピーターを誘致するに足る施策展開をどうするかをまず考えなければならない。一方現在、内外国人観光客とも国内の限られた観光地(大都市圏や北海道等)に集中する傾向があり集中地域では交通機関、宿泊施設の需給が逼迫し、一部では観光地の一般住民の生活に支障が生じるような事態さえ見受けられる。そこで今後の観光発展のカギを握るのは①リピーター対応施策の展開、②国内全域にわたり万遍なく観光する広域観光、二点の実現にあると考えられる。このためには観光資源の充実(とくに量質共に)と資源にかかわる情報の適確な発信が急務となってきた。

即ちリピーターにとっては訪れる回を重ねるほど同じ観光資源の価値は逡減していく(初訪問の場合に比べて)ことは避けられない。又集中地域以外に観光の幅をひろげるにはそこに集中地域と同様もしくはそれ以上の観光資源が存在している等受入れ体制の充実が求められる。即ち新観光資源の発掘開発、既存資源から新たな魅力の引き出しができるかどうかということになる。

以下本稿では上記のニーズを満たすため、新観光資源の開発、既存観光資源からの魅力再発見のために、いわば日本の隠れた「光」(魅力)を見つけ出すことができるかどうかと共に、既存の地域の「光」をさらに輝かせる余力の有無を探ってみることとしたいわば観光資源の“ディスカバー・ジャパン”を試みたいと考える。

9 市場では全てで前年同月比2 桁増を記録した。継続的に展開している訪日旅行プロモーションと、好調なクルーズ船需要の効果により、訪日外客数全体としては増加に転じた。

ただ、1 月～ 10 月の伸び率は9.7%で、昨年通年の伸び率19.3%に比べて大きく鈍化しており、今後の伸び率を注視していく必要がある。

JAPAN NOW Vol.122 CONTENTS

■ 観光庁長官に田端浩氏が就任

・ ・ ・ ・ ・

1

■ 隠れた「光を求めて」① / 行政の話

・ ・ ・ ・ ・

2

■ アメリカこぼれ話⑤⑧ / 山本五十六 / 秋の叙勲

・ ・ ・

3

■ 青森県初の「クラブ～」 / NEW SPOT

・ ・ ・ ・ ・

4

■ 茨城県アンテナショップ「IBARAKI sense」

・ ・ ・ ・ ・

5

■ チェルノブイリ旅行 / COLUMN

・ ・ ・ ・ ・

6

■ 観光立国セミナー / 観光作りのタネ

・ ・ ・ ・ ・

7

■ 気象とお天気の話 / 編集後記

・ ・ ・ ・ ・

8

■ JN協会Webサイト(HP) 会員ページにログインする際のユーザー名は《

》、パスワードは《

》です。

『ワールドトラベラーが想う真の国際化』

世界人形館 主催者、272 ヶ国を訪れたワールド・トラベラー 高 康治 氏

高さんは三井物産出身で、現在 81 歳である。1969 年1 月酷寒のモスクワへ出張したのがワールドトラベルの始まりだ。その後の、中東のクウェートに3 年、世界最大のイスラム国インドネシアで5 年の海外駐在経験がトラベラーとしての経歴に大きく寄与した。退職後も趣味の世界の人形、紙幣、コインの収集も兼ねて海外旅行を続けた。1995 年には1 月に南極、5 月に北朝鮮、7 月に北極点11 月にはネパールのエヴェレスト山麓などを旅して忘れ得ぬ年となった。

過去45 年間に訪問した国は201、地域は71 になる。現在国際的に認められている国は197 であるが、日本を除く196 ヶ国に加え、北キプロス、西サハラ、アブハジア、沿ドニエストル、ナゴルノ・カラバフという5 つの実効支配の国々全てを訪問した。尚、地域とは南極、北極、香港、台湾などである。沢山ある忘れ得ぬ印象的な国、地域、スポットの内、一部を順不同で紹介する。

究極の海外旅行は南極で、特に火山のあるデセップション島で温泉に入ったのが忘れられない。駐在したクウェートの風情ある運河クリークやインドネシア・パプア州奥地に住む裸族ダニ族の原始的な石器時代生活も印象深い。ヴェネズエラ・ギアナ高原のエンジェル・フォールやイグアスの滝。死海での浮遊体験、中国四川省のパンダ保護区、敦煌の莫高窟、チベットのポタラ宮、ナビビアの砂漠、アフガニスタンのバーミヤン磨崖仏、シベリア鉄道、アルゼンチン・パタゴニア地方の氷河等々、沢山有り過ぎて紹介しきれない。

最後に、真の国際化とは、TV や雑誌の海外情報で満足せず、自らの目で見、体験することである。まず、外志を抱け！願わくば、世界に雄飛せよ！そして、口先だけでなく、真の国際交流や世界平和を考え、実行しよう！

観光作りのタネ / 変化は進化

JN観光講師 今井 智康

先日、知人の会社が展開している渋谷のカフェに行った。店の名は「変なカフェ」。旅行業界の方ならお気づきかだろう。ハウステンボスで話題を呼んだ「変なホテル」の延長にある実験カフェだ。右写真で見るように、店にはロボットしかいない。「コーヒーを淹めるだけで大袈裟な」と言って切り捨てれば話は終わるが、目先を変えて「このロボットに何をさせるか」と考えると別の世界が広がる。“コーヒー以外に何が作れるか”。来春、某高速道路SAでこのロボットがソフトクリームを作って売るそう。休日要らずの労働力。しかし、ただソフトクリームを作るだけではない。話をする。老若男女や人種を識別してAIコミュニケーションをとるという。人類は足元に転がる木の棒や石ころを道具にして進化した。工夫で進化するのは観光も例外ではない。

『地域の誇りで飯を食う！』

北海道大学 観光学高等研究センター客員教授 真板 昭夫 氏

真板さんはフジテレビで、キャラクター、ガチャピンと一緒に、子供たちに自然や動物を解りやすく伝える仕事をし、観光や環境の分野に取り組むことになった。観光研究は運動論である、という信念で1990 年代以降エコツーリズムの伝道師として活躍されており、研究対象も西表島、南大東島、そして26 年間続けている岩手県二戸市に絞り込み、長く調査を継続している。今回は二戸での研究を中心に紹介された。二戸はたばこの生産地で、生活漆器などで知られているが、昔から貧しい地域で、雑穀を主食とした南部藩の飢餓覚書の存在を話された。「雑」とは命を守る主食の多様性を意味する言葉だという。

地域での活動は、地域の宝を見つけてブランド化し、地域が価格決定権を持つことにより地域を活性化させることである。「宝探し」から地域おこしまでは5 段階ある。宝を探し、それを磨き、誇りを待たせ、それを伝える方法を考え、いかに産業として興すか、である。産業化に必要な地域ブランド商品の形成には、1)理由つけの理念の確立2)正当性(道具立て)3)環境と場の設定の三要素が欠かせない。宝には6 つのフレーム(分類)がある。1)自然2)生活環境(信仰、祭、郷土料理等)3)歴史・文化4)産業(伝統技術、伝統工芸、特産品等の外部世界への発信)5)名人・社会貢献者・伝承者・開拓者6)要望(未来へのエネルギー) 地域の活性化には、常に生活者の目線で、地域の旬を見える化する、フェノロジーカレンダーを作成するのが有効である。

若者はまちの創造力、子供たちはまちの未来の継承者、年寄り はまちの知恵の宝箱、この三本の矢が束になってのまちおこしが成功への鍵となる。

真板さんの、臨場感溢れる現地での数々の体験の話を、スペースがなくて紹介できないのが残念です。



第148回観光立国セミナー開催のお知らせ

第148 回観光立国セミナーを12 月14 日(金)12:00 より海事センタービル2 階会議室にて開催。要事前予約

講師: 小林 和夫 氏 米国公認会計士・香港貿易コンサルタント・駐 香港 21 年

山本 恵美 氏 香港政府観光局 シニアエグゼクティブ

演題: 「通の香港」～ 香港観光の今・これから ～

参加費 会員:1,000 円 一般:2,000 円 ※昼食(弁当)付き

旅マニアにとっての国・地域の考え方

観光学博士 寺前 秀一



チェルノブイリを訪問する機会があった(写真左)。被害は風下に当たった隣国ベラルーシのほうがひどかったといわれているがランドツアーがなく、ネットのVIATOR情報を活用してキエフからのランドツアーに参加した。日帰り1万円程度で参加でき、外国人には大変な人気である。

道中、注意事項とビデオでの原発事故の概略の説明を受ける。広島原爆との比較で放射能汚染の説明をしていた。福島は何人死亡したのかと聞かれ、直接の死者はゼロであったが、間接の被害者はわからないと答えておいた。いずれにしろ、広島・長崎、福島の世界的な知名度は原子力と無縁ではないことも強く認識させられ、チェルノブイリ観光の逞しさを感じた。

チェルノブイリ地区のものは持ち出し禁止となっている。十分に除染されていないなかった人形を記念に持ち出した見学者がいて、後で体調を崩したものがいるという実話なのか神話な



のかかわらないが、注意するように言われた。チェルノブイリ地区の入りでパスポートを見せ登録する。事故関連のグッズが販売されている(写真左下) 防毒マスクが一番目立つので人気がある。除染が行われた結果、問題の発電所のそばまで行くことができる。完全に防護壁でおおわれている。昼食は、被害地住民の経営するレストラン、彼らの生活を守る意味で営業継続が保障されている。除染の過程で放射性物質が一カ所に集中してたまる場所がでてくる。人体には害がないが、ガイガーカウンタで数値がでてくるので、ガイドは実演して見せてくれる(写真右)。

ホットスポットと呼んでいたが、日本の怪しげな靈感観光のホットスポットとは異なり、文字通りのホットな場所である。レーニンの銅像は、沿ドニエストル共和国のように旧来通り存置されている地域もあるが、ウクライナでは破壊されたようだ。しかし、チェルノブイリでは存置されている。放射性物質の拡散を恐れてのことだが、観光客はそんなことはお構いなしに、銅像の前で記念撮影をする。観光資源とは刺激が本質であることを改めて認識した次第である。



ガイガーカウンターの実演

らの直行便もなく日本人観光客もほとんど訪れない陽の当たらない小さな島である。

しかし、そこには日本人が決して忘れてはならない、広島長崎へ原爆を投下したあのB 29 戦略爆撃機「エノラ・ゲイ」と「ボックスカー」が飛び立った空港がそのまま残され、滑走路端に建てられた記念碑が過去の記録をさりげなく伝えてくれる。

かつて太平洋戦争戦没者遺骨収集事業に携わっていた時、プロペラ機でサイパン島からテニアンへ飛び、そこで集められた遺骨とともに上陸用舟艇でサイパンへ帰島したことがあった。映画などでは、第2次世界大戦中連合軍の上陸用舟艇がノルマンジー海岸へ上陸し、その先端部が大きく開くと中から兵士たちがどっと飛び出す勇ましいシーンが映し出されるが、外が見えない狭苦しい船底で戦没者の遺骨とともに身を屈めて乗船していた時は、気持ちが落ち込んでいた。私とは状況は異なるが、Sさんの過酷な戦時体験にも心の壁に似たような感情がこびりつき、悪夢から逃げ出したい気持ちがあったのではないだろうか。 エッセイスト 近藤 節夫

アメリカごぼれ話 58 「アメリカ大陸にあったもの、なかったもの」② 動物編

元JTB取締役 北村 嵩

西部劇映画で見る、カウボーイが活躍するテキサスの大牧場や、アルゼンティンのパンパスで牛を追う gaucho の姿を知る我々には、「500年前のアメリカ大陸に、牛や馬がいなかった」とはにわかに信じられない思いがある。



コロンブスが新大陸に到着した当時、この大陸で飼育されていた動物の種類は極めて少なかった。アンデスの高地で、毛皮や食肉のために飼育されていたリャマやアルパカの他では、七面鳥、アヒル、食用犬が飼育されていたくらいである。ユーラシア大陸では一般的であった、牛、馬、豚、羊などの大型家畜類はまったく存在していなかった。

インカ帝国を滅亡に導いた有名なエピソードがある。1531年11月、ペルー北方の高地カハマルカで、スペインの征服者ピサロとインカ皇帝アタワルパが戦った時、ピサロが率いていたのはわずか60人の騎兵と106人の歩兵だけであった。一方、皇帝アタワルパは8万人の兵士に護られていた。しかし、ピサロの奇襲で皇帝が捕虜となり、その後処刑され、インカ帝国は急激に滅亡へ向かったのである。数的には圧倒的に有利なインカが敗れた原因は、スペイン側が所持していた鉄砲や鉄製の剣、槍などの威力が、青銅製や石の棍棒が主な武器であったインカ側を凌駕したからである。しかし、それに加えてインカ兵士の大半が初めて見る動物“馬”に騎乗する騎兵に度肝を抜かれ、金縛り状態に陥ったからだと言われている。

牛や馬などの大型動物が存在しなかったということは、単にエネルギー源となる動物性たんぱく質や乳製品がなかったのみならず、皮や毛を繊維や道具に利用することも、農耕や水車等の動力源も、軍事的な活用も、農業に利用する肥料もなかったということである。ユーラシア大陸では牛、馬、ロバが石臼や水汲み機を動かし、畑の灌漑や水はけを行う。戦争になると軍馬が輸送力や情報伝達、そして殺傷力として利用されていたが、新大陸では、これらすべてを人間が行っていたのである。

アメリカ大陸の大型野生動物は、再新世末期に絶滅した。ユーラシア大陸では家畜化が可能な動物が多く生息していたのに比べ、わずか一種類の大型動物、リャマとアルパカだけしか家畜化されなかったのである。しかし、これらの動物も、残念ながらアンデス高地の一部にしか分布せず、大陸全体には広がらなかった。もちろん七面鳥やテンジクネズミ、犬などの鳥や小動物は家畜として飼育されていたが、ヨーロッパで新たに家禽として飼育された新大陸の生き物は七面鳥だけである。



山本五十六

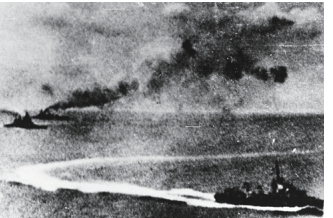
小田急電鉄株式会社 特別社友 利光 國夫

今年80歳の傘寿を迎えた私は傘寿記念として過去にいろいろなところに寄稿した随筆やエッセイを編集して、「老いぼれ寅の随想録」と銘打って6月に自費出版をした。本紙に寄稿したものもいくつか含んでいるが、その中に「山本五十六」について書いた一文が予想外の反響を呼んだ。その殆どはいわゆる「山本五十六神話」に基づく疑問で、改めて海軍善玉論が広く信じられているのを痛感させられた。これは海軍びいきの阿川弘之氏の著書や、山本を悲劇の名将として描いている何本もの映画の影響が大きいと思われる。

ここではあまり詳しく述べる紙面の余裕はないが、書店を丹念に廻って調べれば私の見解を裏付ける資料は数多く見つかるはずだ。福井雄三、倉山満、日下公人といった諸氏の著書がその一例と言えるだろう。

真珠湾攻撃の戦略的愚劣さ、ミッドウェー海戦のおそまつ、ガダルカナル島攻防戦の拙劣さなど山本五十六が愚将であることを示す材料は枚挙に暇がない。

ミッドウェー海戦を例にとれば、連合艦隊司令長官でありながら、自らは戦場から540キロも離れた後方の旗艦大和で大物ぶって将棋を指しながら報告を待っているだけ、その結果大敗しても何の責任もとらない。日本海海戦で東郷平八郎が砲煙弾雨に身をさらしながら、死を覚悟して指揮を執り続けたのとは大違いである。マレー沖海戦で英国艦隊司令長官はプリンス・オブ・ウエールズが撃沈されたとき、退艦の余裕があるのに脱出する部下たちに微笑みながら手を振って艦と運命を共にしたのと比べても、軍人としての資質の差を痛感させられるばかりである。



日本軍機の攻撃を受けるプリンス・オブ・ウェールズ

JN 協会梅原四国支部長、丸山特別顧問が叙勲

平成30年の秋の叙勲において、梅原 利之 JN協会四国支部長が「旭日重光章」、丸山 博 JN協会特別顧問が「瑞宝重光章」を受章された。

梅原氏は元 四国旅客鉄道株式会社社長。鉄道輸送の高速化や観光開発に尽力されたことが評価されての受章。

丸山氏は元 国土交通審議官。国土交通行政の推進に功績があったことで受章された。



春秋叙勲: ~受章者は~(略)~旭日重光章及び瑞宝重光章を、宮中において内閣総理大臣から伝達されます。

説明および写真: 内閣府 HP より

青森県初の「Jクラブ」誕生の先に



株式会社ヴァンラーレ八戸 常務取締役
田代 貢一郎 氏

「統合型地域スポーツクラブ」を作り、スポーツで地域に貢献したい！地元の若者たちが中心となり、2006年に八戸市南郷(旧南郷村)にヴァンラーレ八戸FCが誕生した。

チームが「Jリーグ入会を目指す」事を表明したのが2008年。すぐに報道を通して世間に公表したが、周囲の反応はゼロ。サッカー関係者のほとんどが「青森にJクラブは無理」、「無謀」と反対した。

Jリーグ入りへの挑戦を始めた当初は、何から手を付けてよいのか分からずに、途方に暮れる日々が続いた。

東北社会人2部リーグ時代の2011年には、東日本大震災の影響で1部との入れ替えが無くなり、結果を出しても1部への昇格ができない状況から選手が次々に退団。選手がたったの13名というギリギリの人数でシーズンを乗り切る事となる。



2015年にはJFL(日本フットボールリーグ)で前期優勝し、念願のJリーグ入会を果たしたかと誰もが思ったが、J3クラブライセンス基準のスタジアムを確保できない事を主な理由にJ3クラブライセンス不交付という結果になった。このほかにも様々な紆余曲折はあったが、スタジアムの問題、観客動員の問題、そして成績と、毎年少しずつ問題をクリアしていき、ついに2018年11月20日に青森県で初めてのJリーグチームとしてヴァンラーレ八戸FCはJリーグへの入会を果たした。

「青森県にJリーグのチームを！」最初は誰しもが半信半疑で、まさしく雲をつかむような話だった。しかし、さまざまな困難を乗り越えた先に、夢にまで見たスポーツでの地域振興の形が見えてきた。将来的なチームの目標は「南郷にホームスタジアム」を持つこと！

ヴァンラーレ八戸FCが誕生した南郷村は、残念ながら八戸市への編入により無くなってしまった。けれどもチームの活躍により、週末にはたくさんの人々がヴァンラーレ八戸FCの試合を観戦に来てくれて、自分たちの地元でありチームの起源でもある「南郷」がスポーツで盛り上がる。そんな未来を僕たちは夢みている。



NEW SPOT

in Japan 71

春の渋谷川

東京▶渋谷駅南地区の大規模再開発が進み、5年前の東急東横線の地下化で廃止された地上ホーム部分に複合施設「渋谷ストリーム」が2018年9月開業した。地上35階地下4階で1～3階が30店ほどの飲食街、上階は客室177のホテルやイベントホールなどで賑わう。ストリーム2階から駅を結ぶ広い遊歩スペースが設けられ、首都高速道と国道246号線で分断されていた駅南地区がつながり人の流れが復活した。東横線のイメージを残す駅舎の「かまぼこ屋根」を一部再現し、2階飲食街の通路に鉄道レールを埋め込み隣駅の代官山方向へ続く線路跡の遊歩道へ流れを導く。

ストリーム前の稲荷橋広場から渋谷川が川面の姿を見せる。もともと新宿御苑が源で渋谷区の中央を流れ港区に入ると名前を変えて古川となり東京湾に注ぐ。のどかな農村風景が戦後しばらく残っていた。稲荷橋から上流の宇田川の支流▶河骨川は黄色い可憐な花コウホネが咲き、唱歌「春の小川」に歌われた。春の小川はさらさら流る 岸のすみれやれんげの花に、、、小田急線代々木八幡駅近くに歌碑が建つ。ところが戦後「東京都市計画下水道」告示で渋谷駅から上流をすべて暗渠の下水道とする



渋谷駅南の稲荷橋(正面)から青空のもと渋谷川が流れる

決定があり、前回の東京オリンピックを機に工事が急ピッチで進んだ。宇田川などことごとく下水道になり流れは人々の視野から消えた。

新生渋谷川は左右側面から浄化水を滝のように流し清流気分を味わえるほどになったが側面と川床もすべてコンクリート構造のため、やや味気ない。川幅が狭くても側面を草花が生える構造にし緑豊かな川辺を取り戻したい。下水は駅南から専用路を通じて流れており渋谷川本線の潤い復活に期待が膨らむ。19年秋には47階(地下7階)高さ230mからスクランブル交差点を見下ろす「渋谷スクランブルスクエア」と南口の東急プラザが生まれ変わる地上18階地下4階の「渋谷フクラス」が開業し再開発は続く。 文・写真 林 莊祐

観光の縮図アンテナショップめぐり③

「IBARAKI sense」茨城県アンテナショップ リニューアルオープン



10月25日、銀座1丁目の茨城県のアンテナショップがリニューアルオープンした。従来は「茨城マルシェ」で、約1,000品目の県産品を揃えた店舗であったが、新たに店名を「IBARAKI sense」とし、「茨城の厳選された逸品を世界へ」をコンセプトに、商品を約500品目に絞り込み、高級、上品なイメージの店舗にリニューアルした。

取材の日は開店後2週間をすぎた11月13日で、この日は「茨城県民の日」であり、買い物客をされた先着200名に新鮮な茨城産の野菜がプレゼントされた。店長の原田さんと茨城県営業戦略部の大久保係長に話を伺った。店内は、食品、地酒、工芸品を紹介・販売するショップと、プロジェクトマッピングで迫力ある袋田の滝、筑波山、国営ひたち海浜公園をみながら茨城の厳選食材を使った料理を堪能できるレストラン「BARA dining」、茨城産の旬のフルーツを使用したオリジナルスイーツを楽しめる「BARA cafe」とに分かれている。なお、バラは県の花でお店のロゴマークにもなっている。

観光コーナーでは、観光パンフレットや店内外に設置されているデジタルサイネージで茨城の絶景やイベント情報をPRしている。

茨城県は民間調査会社の都道府県魅力度ランキングで6年続いて最下位である。納豆や干し芋といった固定化されたイメージから脱却する一助として、新装の「IBARAKI sense」の発信力が期待されている。県内には隠れた魅力が多数存在しており、量売るのではなく、県の産物個々のストーリー性を重視して紹介し、県産品のブランド力向上を図ることを目標としている。

店内では、今が旬の星霜柿や奥久慈リンゴを使用したアッ



BARA dining



BARA cafe

プルパイが販売されており、朝並べて夕方には売り切れてしまう売れ筋商品だそうだ。良質なコメと豊富な水脈に恵まれた茨城は地酒の種類も多く、40もの酒蔵があるという。また、常陸野ネストビールなどの地ビールも評判が高い。温暖な気候で、肥沃な大地と海と山に恵まれた茨城は食材の宝庫で、レストランでは茨城沖でとれた具沢山魚介のブイヤベースや鯛茶漬、常陸牛のステーキなどが新鮮な野菜と共に笠間焼の食器で提供されることにより、銀座の客層にあった高級感を出すよう心がけているという。

銀座はアンテナショップの激戦地で、「IBARAKI sense」の近隣にも、沖縄、高知、福井などのアンテナショップが出店している。幸いリニューアルオープン以来、メディアの取材が続き、テレビや新聞での店の紹介も増えたので、来館者数は順調に伸びており今後、この勢いを維持できる様頑張りたいとのこと。

銀座という土地柄、周辺のホテルからの外国人観光客の来店も多く、笠間焼や日本酒を買う客もあり、今後は日本人客と共に、取り込める工夫も考えたいとのことであった。



アップルパイ



地酒



笠間焼



店内



納豆コーナー

